

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ11月-

～クズのツルでかご編みに挑戦～

11月のウッドランドクラブは冬を間近に迎え、山野でツルが目立つクズを利用してのかご編みです。自然の素材のみで作上げた「かご」は、ネイチャークラフトの代表と言えるでしょう。細くて長くまっすぐに伸びたツルは、なかなか見つかりませんが、何とか参加者分を確保しました。当日は、クリスマスリース作りのグループも設け、クリスマスの気分にも浸ることができたようです。天候にも恵まれ、参加された



＜芸術的な「かご」!＞

皆様は満足のか1日ではなかったでしょうか。

昼食後、県の自然保護課による生物多様性の講話がありました。生物多様性とは、人間もふくめた生き物のつながりやかわりのことです。これをパネルを使いながら説明していただきました。豊かな自然を守り育て、引き継ぎ、そして、自然の恵みを上手に使うためにはどんなことをすればよいのか、について話されました。しっかり取り組んでいきたいものです。



＜生物多様性!＞

こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで専属ことりカメラマン(?)の 大友さんのコーナーです

- ① “やっと来た!クマタカ” 例年より遅く心配でしたが悠然と現れました。青空を独占、この冬も楽しみです。
- ② “初めてのセッカ” 1本の茎を両脚でつかんで止まります。尾羽の先が半透明の白です。
- ③ “エサ優先ヤマドリ” オスです。グラデーションのきいたモザイク模様の羽が大好きです。近付いても逃げません。冬に備えて食欲旺盛です。今年は249号線が通行止めで科学館周りだけの撮影でした。でもこの周辺でもたくさんの小鳥がいて、しかも繁殖しているのを確認できました。皆さんも双眼鏡片手に散策にいらしてください。(大友)



＜①クマタカ＞



＜②セッカ＞



＜③ヤマドリ＞

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

“デカすぎじゃない”

デカすぎ～

キノコが出ると同時に現れるのがダイセンヤマナメクジである。大きさは里にいる普通の?ナメクジの3倍を超える。キノコが大好物なのかヒラタケやブナハリタケなどが生えているところによくよく現れる。あまりにもデカくてチョッピリ、キモイので小枝で払い落してからキノコを採っている。

ナメクジはカタツムリの殻が徐々に退化してナメクジとなったと言われ、アワビなどの巻貝から進化したとも言われている。国内外の多くの地域で薬や食料として食べられているようだが、見ているだけでもチョット?と感じるのは小生だけではなく。(は)



＜デカイよ!＞



＜ブナハリタケに迫る＞

まめちしきコーナー “花や木などのチョットした知識”

～傷は自分で殺菌!!・・・「ニオイヒバ」(ヒノキ科)～

ヒノキ科ネズコ属のニオイヒバは、北米原産の樹木で明治時代に持ち込まれました。ヒノキ科の祖先は中生代に登場し、葉の独特な形などは太古の姿を感じさせる樹木です。

ニオイヒバはその名のとおり、葉をもむとひととき強い芳香が漂います。ニオイヒバに限らず、ヒノキ科の樹木には強い香りがありますが、これはフィトンチッドという揮発性の化学物質が放出されるためです。この物質はヒノキやマツなどの針葉樹に多く含まれ、広葉樹ではクスノキなどに多く含まれています。そして、この物質は葉などが傷ついた際に放出され、傷口を守るための殺菌作用があるといわれます。フィトンチッドは葉から主に放出されますが、全体として森に侵入する菌や細菌などの微生物から身を守っているともいわれます。さらに森の悪臭を取り除き、人間にとってはストレスを解消させる森林浴効果もあるようです。ひと昔前のお魚屋さん、鮮魚の下にヒバの葉っぱを敷きつけていましたが、その謎がようやくとけた次第です・・・(千葉)



＜ニオイヒバの実＞

科学館情報

森林科学館より

4月1日の開館から8ヶ月が過ぎ、12月1日からの冬季休館を迎えようとしております。今年度は20回のイベントを企画し、子供からお年寄りまで楽しめる森林科学館を目指し努力いたしました。こもれびの森通信は、来年の4月までお休みとなります。来年度も、花山地区の皆様のご協力とご支援によって当館の運営があることを肝に銘じ、来館者が花山の自然に親しみ、「こもれびの森」を楽しんでいただけることを願っております。

宮城県こもれびの森「森林科学館」 所長 千葉 敬一